

令和6年度 FD・SD活動報告書

学生による授業改善アンケートに基づく教員の取り組み

教員相互授業参観による教員の取り組み

FD・SD研修活動

令和7年3月31日

宇都宮短期大学
自己点検・評価委員会

目 次

| | |
|---|----|
| I. 令和6年度学生による授業改善のためのアンケート全体集計結果（時系列） | 2 |
| 【音楽科】【人間福祉学科】【食物栄養学科】 | |
| II. 令和6年度 授業改善のアンケート、教員相互授業参観及びFD・SD活動のまとめ | 2 |
| II-1 学生による授業改善のためのアンケート | 3 |
| II-2 教員相互授業参観と動画“大学の授業を極める”視聴によるFD研修について | 4 |
| II-3 令和6年度の授業改善アンケートの結果、教員相互授業参観及びFD活動への取り組みの総括 | 4 |
| 【音楽科】 | 4 |
| 【人間福祉学科】 | 6 |
| 【食物栄養学科】 | 9 |
| II-4 令和6年度SD活動の取り組みの総括 | 11 |
| III. 令和6年度FD・SD研修会報告 | 11 |
| 【音楽科】 | 11 |
| (1) 音楽科第1回FD研修会 | |
| (2) 音楽科第2回FD研修会 | 12 |
| 【食物栄養学科】 | 12 |
| 「健康日本21(第三次)の策定について～栄養・食生活領域を中心に～」 | |
| 【宇都宮短期大学(宇都宮共和大学)FD・SD研修会】 | 12 |
| (1) 宇都宮短期大学FD研修会「合理的配慮に関する研修」 | 12 |
| (2) 宇都宮短期大学FD・SD研修会「教学マネジメントに関する研修」 | 12 |
| (3) 宇都宮短期大学(宇都宮共和大学)FD・SD研修会「教職員向け情報セキュリティ研修」 | 12 |
| (4) 宇都宮短期大学FD研修「第4評価期間短期大学認証評価に関する研修」 | 13 |
| (5) 宇都宮短期大学(宇都宮共和大学)FD・SD研修会「キャンパス・ハラスメント防止啓発研修」 | 13 |
| (6) 宇都宮短期大学(宇都宮共和大学)FD・SD研修会「研究倫理研修」 | 13 |
| (7) 宇都宮短期大学(宇都宮共和大学)FD・SD研修会「令和7年度シラバスチェック」 | 13 |
| IV. 令和6年度SD研修会報告 | 14 |
| (1) 日本私立学校振興・共済事業団 助成部「令和6年度助成部相談会・説明会」 | 14 |
| (2) 関東私立短期大学協会 「令和6年度 教職員研修会」 | 14 |
| (3) 文科省関係機関 「令和6年度階層別サイバーセキュリティ研修」 | 14 |
| (4) 日本私立短期大学協会 「令和6年度私立短期大学学生生活指導担当者研修会」 | 14 |
| (5) 日本私立短期大学協会主催「地方創生2.0に向けた私立大学・短期大学と自治体との連携強化に関する説明会」 | 14 |
| (6) 日本私立学校振興・共済事業団 「私学共済事務担当者研修会」 | 15 |
| (7) SD研修会「パワハラ防止とホスピタリティマナー」 | 15 |

I. 令和6年度学生による授業改善のためのアンケート全体集計結果（時系列）

【音楽科全体集計・時系列比較】

| No. | 設問文 | そう思う・どちらかといえばそう思う | | | | | | | | | |
|-----|-----------------------|-------------------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|-------|-------|
| | | R6年度 | 前年比 | R5年度 | 前年比 | R4年度 | 前年比 | R3年度 | 前年比 | R2年度 | 前年比 |
| 1 | 教員の講義はよく聞き取れた | 91.5% | △ 0.7 | 92.2% | △ 4.7 | 96.9% | △ 1.2 | 98.1% | 2.4 | 95.7% | △ 0.1 |
| 2 | この授業の内容はよく理解できた | 86.4% | △ 4.6 | 91.0% | △ 4.3 | 95.3% | 0.3 | 95.1% | 2.2 | 92.8% | △ 0.4 |
| 3 | 知的関心・興味が深まった | 90.1% | △ 1.1 | 91.2% | △ 4.8 | 96.0% | △ 0.4 | 96.4% | 3.8 | 92.6% | 0.1 |
| 4 | 教員は質疑応答の機会を適切に作った | 88.3% | △ 2.6 | 90.8% | △ 2.4 | 93.3% | △ 2.3 | 95.6% | 2.9 | 92.7% | 0.1 |
| 5 | マナーの悪い学生に対する指導は適切であった | 83.5% | △ 1.1 | 84.6% | △ 5.1 | 89.7% | △ 0.8 | 90.4% | 1.2 | 89.2% | △ 2.1 |
| 6 | 教科書・資料などの教材は適切であった | 92.4% | △ 0.9 | 93.4% | △ 3.5 | 96.9% | 0.5 | 96.4% | 1.2 | 95.2% | 1.8 |
| 7 | 私は、この授業に積極的な関心をもっている | 88.7% | △ 3.5 | 92.2% | △ 2.0 | 94.2% | △ 1.3 | 95.5% | 5.3 | 90.2% | △ 2.6 |
| 8 | 私は、学生としてのマナーを守った | 92.4% | △ 2.9 | 95.3% | △ 0.9 | 96.2% | △ 0.5 | 96.7% | 3.8 | 93.0% | 1.8 |
| 9 | 私は、この授業の予習あるいは復習をした | 65.4% | △ 11.2 | 76.6% | 0.8 | 75.8% | △ 0.8 | 76.7% | 2.9 | 73.7% | 2.0 |
| 10 | 私は、この授業を受講してよかった | 91.0% | 0.6 | 90.4% | △ 3.5 | 93.9% | △ 0.3 | 94.2% | 0.3 | 93.9% | 0.1 |

【人間福祉学科全体集計・時系列比較】

| No. | 設問文 | そう思う・どちらかといえばそう思う | | | | | | | | | |
|-----|-----------------------|-------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|-------|-------|
| | | R6年度 | 前年比 | R5年度 | 前年比 | R4年度 | 前年比 | R3年度 | 前年比 | R2年度 | 前年比 |
| 1 | 教員の講義はよく聞き取れた | 92.3% | △ 3.9 | 96.2% | △ 1.2 | 97.4% | 2.0 | 95.4% | 1.6 | 93.8% | 1.8 |
| 2 | この授業の内容はよく理解できた | 87.2% | △ 4.9 | 92.1% | △ 1.1 | 93.2% | △ 0.5 | 93.7% | 2.9 | 90.8% | 3.4 |
| 3 | 知的関心・興味が深まった | 92.6% | 0.1 | 92.5% | △ 1.9 | 94.4% | 2.2 | 92.2% | 2.7 | 89.5% | 1.9 |
| 4 | 教員は質疑応答の機会を適切に作った | 91.5% | 1.7 | 89.7% | △ 1.6 | 91.3% | △ 0.5 | 91.9% | 1.5 | 90.3% | 3.4 |
| 5 | マナーの悪い学生に対する指導は適切であった | 78.5% | △ 3.0 | 81.5% | △ 4.5 | 86.0% | △ 1.5 | 87.5% | 7.2 | 80.3% | △ 0.8 |
| 6 | 教科書・資料などの教材は適切であった | 90.4% | △ 3.9 | 94.3% | △ 1.5 | 95.8% | 1.1 | 94.7% | 2.0 | 92.6% | 0.4 |
| 7 | 私は、この授業に積極的な関心をもっている | 86.8% | △ 4.2 | 91.0% | △ 0.3 | 91.3% | △ 0.0 | 91.3% | 3.1 | 88.2% | 1.5 |
| 8 | 私は、学生としてのマナーを守った | 92.1% | △ 1.9 | 94.1% | 3.8 | 90.2% | △ 1.3 | 91.6% | 1.9 | 89.6% | △ 0.7 |
| 9 | 私は、この授業の予習あるいは復習をした | 61.3% | △ 4.4 | 65.7% | 1.4 | 64.3% | △ 1.6 | 65.9% | 3.9 | 62.0% | 5.0 |
| 10 | 私は、この授業を受講してよかった | 94.0% | 1.3 | 92.7% | △ 0.1 | 92.8% | △ 0.2 | 93.1% | 1.2 | 91.8% | 0.9 |

【食物栄養学科全体集計・時系列比較】

| No. | 設問文 | そう思う・どちらかといえばそう思う | | | | | | | | | |
|-----|-----------------------|-------------------|-----|-------|-------|-------|-----|-------|-------|-------|------|
| | | R6年度 | 前年比 | R5年度 | 前年比 | R4年度 | 前年比 | R3年度 | 前年比 | R2年度 | 前年比 |
| 1 | 教員の講義はよく聞き取れた | 96.3% | 4.5 | 91.9% | △ 1.5 | 93.4% | 4.0 | 89.4% | △ 2.1 | 91.5% | 2.5 |
| 2 | この授業の内容はよく理解できた | 93.3% | 5.3 | 88.0% | △ 2.6 | 90.6% | 4.8 | 85.8% | 0.1 | 85.7% | 0.6 |
| 3 | 知的関心・興味が深まった | 94.3% | 5.1 | 89.2% | △ 2.5 | 91.7% | 6.0 | 85.7% | △ 1.0 | 86.7% | 3.7 |
| 4 | 教員は質疑応答の機会を適切に作った | 95.0% | 8.7 | 86.4% | △ 4.1 | 90.5% | 2.5 | 88.0% | △ 2.0 | 90.0% | 5.5 |
| 5 | マナーの悪い学生に対する指導は適切であった | 89.4% | 2.7 | 86.7% | △ 4.0 | 90.8% | 5.5 | 85.3% | △ 1.3 | 86.6% | 9.7 |
| 6 | 教科書・資料などの教材は適切であった | 95.9% | 5.2 | 90.7% | △ 3.5 | 94.2% | 5.2 | 89.0% | △ 2.7 | 91.7% | 3.5 |
| 7 | 私は、この授業に積極的な関心をもっている | 94.0% | 4.9 | 89.2% | △ 2.1 | 91.3% | 4.6 | 86.7% | 0.9 | 85.8% | 1.5 |
| 8 | 私は、学生としてのマナーを守った | 91.6% | 0.7 | 90.9% | △ 4.7 | 95.6% | 4.9 | 90.7% | △ 0.6 | 91.2% | 8.4 |
| 9 | 私は、この授業の予習あるいは復習をした | 82.5% | 2.5 | 80.0% | △ 2.1 | 82.1% | 9.8 | 72.2% | △ 2.5 | 74.7% | 13.5 |
| 10 | 私は、この授業を受講してよかった | 95.4% | 6.1 | 89.3% | △ 4.8 | 94.2% | 6.1 | 88.0% | △ 2.1 | 90.2% | 2.6 |

注) 結果は、各設問の5段階評価(そう思う・どちらかといえばそう思う・どちらともいえない・どちらかといえばそう思わない・そう思わない)の「そう思う・どちらかといえばそう思う」の通年の割合を示している。

II. 令和6年度 授業改善のアンケート、教員相互授業参観及びFD・SD活動のまとめ

音楽科 学科長 新井 啓泰
 人間福祉学科 学科長 堀 圭三
 食物栄養学科 学科長 百田 裕子
 事務局長 江田 壮一

宇都宮短期大学の音楽科・人間福祉学科・食物栄養学科では、FD活動の一環として、毎年、学生による授業改善のためのアンケートを前期・後期末に実施して、教員の授業改善に対する取り組みを図っている。また、FD・SD研修として、研究倫理やキャンパス・ハラスメント、喫緊の課題に対する研修会を開催して、教育・研究活動の円滑な実施と、教育の質の向上に努めている。さらに、昨年度後期の教員相互の授業参観に引き続き、自己の担当科目の授業方法を客観的に見直し、改善の一助とすることで、教育の質の向上を図ることを目的として、音楽科、食物栄養学科では、「教員相互授業参観を通して、教授方法を学ぶ」FD活動を今年度も後期に実施した。人間福祉学科では、旧関西地区FD連絡協議会が作成した動画教材『シリーズ大学の授業を極める』を各自で視聴し、レポートにまとめた。

本報告は、学生による授業改善のためのアンケートを受けた教員の「授業評価改善アンケート」、「教員相互授業参観報告書」及びFD・SD研修会の内容をまとめたものである。

以下、令和6年度FD報告書作成のための概要について述べる。

II-1 学生による授業改善のためのアンケート

1. 授業改善のためのアンケートについての基本的な考え方

学生による授業改善のためのアンケートについては、以下のような基本的な考え方に基づいて実施している。

(1) 学生アンケートは組織的・継続的な授業改善の出発点である。

- (a) 「教員個人の結果への解釈と考察の主體的判断」と「大学としての認識の共有化」が目的である。結果は授業の難易度、学生の授業態度、その日のクラスの雰囲気等によって大きく変化するものであり、他の教員や平均点と比べての相対評価は無意味である。継続的な実施・改善による傾向値としての、宇都宮短期大学全体としての数値向上を目指すことが重要である。
- (b) 学生の授業に対する受け取り方（反応）を数値で把握して、教員が自己の授業の特質を知ること意義がある。結果は、学生の認識不足・受講態度の問題か、教員の改善点の問題なのかを分析するためのものである。
- (c) 結果の数値が低い場合は、学生と教員との間に何らかのコミュニケーションギャップがあるものと考えられる。一般的には、学生の理解度が高い科目（教員）は、その他のアンケート項目においてもスコアが高い傾向がみられる。

(2) 授業の均質化や没個性化を回避し、「誠実」かつ「公平」に学生に対応し、教え育てるために活用するものである。

- (a) 個々の教員の人柄・見識・人生観が個性であり、そこに意味がある。
- (b) 授業における時間厳守、規律、表現力、質問への対応は、即ち教員の授業に対する熱意の表れでもある。一方、このような教員の熱意は、学生の授業態度に現れるものでもある。全教員が熱意をもって授業に臨むことは、必然的なことである。

2. 授業改善目標について

本学では、毎年、学生の授業改善アンケート結果、教員の授業改善のためのアンケート結果及び各種FD研修等の報告をもとに、次年度の授業改善目標を設定し、授業改善に取り組んでいる。令和6年度は、次の目標を掲げた。

令和6年度の授業改善目標

成績の評価方法・基準に基づいた「学習の成果」を獲得する授業を行う！

1. 教員の基本的な姿勢
学生との親密な信頼関係を育て、ともに学び合う授業を展開する。
2. 学生への指導目標
学生が自ら学ぶ姿勢を育む。
3. 教員の具体的な行動目標
 - ・準備学習(予習・復習)の意義を理解させ、実践する。
 - ・フィードバック等を通して、学習意欲を高める。
 - ・図書館の利活用を促進する。
 - ・必要に応じて、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を実践する。

3. 教員の授業改善のためのアンケートの項目について

本報告書における教員の授業改善のためのアンケートの項目は、以下の通りである。

- ① 科目の到達目標（学習の成果）と授業内容の工夫について（これまでの努力・改善等）
- ② 令和6年度授業評価アンケート（学生）とそれに対するコメント
- ③ 授業改善の課題と具体的方策
- ④ 令和6年度授業の評価と考察（まとめ）
- ⑤ 令和6年度FD活動“授業改善目標”を踏まえた教員としての授業評価と考察

II-2 教員相互授業参観と動画“大学の授業を極める”視聴によるFD研修について

本学では、自己点検評価推進部会細則に、任務として教員相互授業参観の実施を計画し、教員の質の向上を図ることを掲げている。教員相互の授業参観は、音楽科、食物栄養学科では、今年度も昨年度に引き続き、後期に「教員相互授業参観を通して、教授方法を学ぶ」として、自己の担当科目の授業方法を客観的に見直し、改善の一助とすることで教育の質の向上を図るために実施した。授業参観後は、報告書を作成して提出した。

人間福祉学科では、旧関西地区FD連絡協議会が作成した動画教材『シリーズ 大学の授業を極める』を各自で視聴し、報告書にまとめた。このシリーズは、①「講義法」、②「アクティブ・ラーニング」、③「学習評価」及び④「授業設計」の4つのテーマで構成され、さらに各4本の動画が用意されている。各テーマから、①『講義法は時代遅れ？』、②『アクティブ・ラーニングとは？』、③『学習評価の役割とは？』、④『シラバスってどんな役割があるの？』を視聴対象として選び、③を全員が視聴し、その他1つ以上を各自の選択とした。視聴期間は、7月1日～7月31日までとした。

II-3 令和6年度の授業改善アンケートの結果と教員相互授業参観およびFD活動への取り組みの総括

【音楽科】

音楽科 学科長 新井 啓泰

(1) 令和6年度 授業改善のためのアンケート評価について

令和6年度の音楽科の集計（そう思う・どちらかといえばそう思う）の10項目の平均値は87.0%であった。これは昨年の89.8%、一昨年92.8%と比較して、低い結果となっている。

個別にみると、①～⑥の教員の授業についての設問のうち、評価の高かった項目は、⑥「教科書・資料などの教材は適切であった」92.4%であり、①「教員の講義は良く聞き取れた」91.5%、③「知的関心・興味が深まった」90.1%、④「教員は質疑応答の機会を適切に作った」88.3%と続いた。このことから、教員は適切な教材を用いて、明瞭かつ分かりやすい口調で、学生の関心や興味を引き出し、適切に質疑応答を交えて授業を展開できている、と判断できる。

次に、⑦～⑩の学生自身の受講について、評価が最も高かったのは、⑧「私は、学生としてのマナーを守った」92.4%、⑩「私は、この授業を受講してよかった」91.1%、⑦「私は、この授業に積極的な関心を持っている」88.7%であった。学生はマナーを守りながら真摯で積極的な態度で授業を受けられており、授業への満足度が高いと言える。

学生に評価された点を維持しながらも、全体として向上できるよう、各教員の更なる研鑽を促したい。

(2) 授業改善の具体的方策について

大いに反省すべき点は、項目⑨「私は、この授業の予習あるいは復習をした」が65.8%と、前年度の76.6%に比べて11.2%低い結果となっていることである。しかし、⑩「私は、この授業を受講してよかった

た」91.1%は、昨年度よりも若干高くなっており、学生は学ぶことの大切さを理解しているように思われた。

これらの結果より、授業におけるルール、モラルなどを教員が明確に示すよう、教員側の心がけを図っていききたい。具体的には、講師会等において第一回目の授業における授業の方針の説明や提出物等のルールなど、必要なマナー指導を丁寧に行うよう教員に促していく。

(3) 授業改善目標について

1. 教員の基本的な姿勢

- ・学生との親密な信頼関係を育て、ともに学び合う授業を展開する。

教員の記述を確認し、全員が「概ねできていると考える。」と振り返っており、達成度は高かったとみえる。指導の中で、進度別クラスの対応や担任レベルの対応など、またそれぞれの科目で動画やクロムブックの使用など実施方法を工夫していることがうかがわれる。学生とのマナー指導の徹底も含めてさらに向上していきたい。

2. 学生への指導目標

- ・学生が自ら学ぶ姿勢を育む。

事前事後学習はシラバスへの追記も含め、教員への意識向上がみられ、アンケートでも改善がみられた。実技におけるレッスン簿についても定着し、学生との学習に関する共通意識が持っている。小テストやフィードバックを積極的に行っており、学習成果の可視化により尽力していきたい。

3. 教員の具体的な行動目標

- ・必要に応じて、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を実践する。

音楽科の科目では演習系の授業が多い。より実践的で将来の進路に役立つアクティブ・ラーニングが工夫されて展開されており、それぞれの学生が自ら発言、発表する積極的な態度を身につけている。

- ・準備学習(予習・復習)の意義を理解させ、実践する。

シラバス改訂などにより、事前事後学習への取り組みは改善されつつあり、教員の意識向上がみられる。アンケート上の数字だけでなく、授業内容と循環しながら定着し、学習成果の獲得に具体的につながるよう、さらに徹底していきたい。また、振り返りの時間やフィードバックを具体的に設けていきたい。

- ・図書館の利活用を促進する。

教材等が年々充実している図書館の利活用に関して、具体的に授業で利用するなど取り組みがみられた。資料活用方法の向上など、学習方法の向上にもつなげていきたい。

(4) 令和6年度教員相互授業参観について

F D活動の一環としての教員による相互授業参観を、今年度は後期に実施した。

参観した教員は、自分以外の授業を知ること、授業スキルや、指導の観点を見直す機会となっている。また、学生からどのような学びの意欲を引き出せるか、成長できたかなど、教員間でのコミュニケーションを取る機会にもなっている。それぞれ専門性の高い授業なので、自分以外の専門的観点から学べることも多いようである。より質の高い授業の力をつけられるよう、引き続き実施していく。

(5) 令和6年度のF D活動について

宇都宮短期大学3学科合同のF D・S D研修会では、「高等教育段階における合理的配慮」について学んだほか、動画での「研究倫理研修」など、実用的な内容の研修を受けることができた。ハラスメント防止啓発研修については、宇都宮共和大学と合同で開催され、専任教員が継続的に意識を持って運営することができている。また多くの非常勤講師を抱える本学科において、講師会等の際に、ハラスメントや研究倫理等についての注意喚起、資料の配布等につなげている。

令和6年度音楽科主催のFD研修としては、6月に東京学芸大学名誉教授の椎野伸一先生によるレクチャーコンサート「受け継がれたリスペクト～作曲家たちの技術と精神性～」と題したピアノ研修会、また2月には本学客員教授の赤松林太郎先生によるレクチャー&コンサート「ショパンを弾こう～ショパンにとってのワルツとは～」を実施した。

東京学芸大学名誉教授の椎野伸一先生は、須賀英之学長の奥様、東京学芸大学名誉教授・須賀房江先生のご縁でお迎えすることができた。長きにわたり、栃木県ジュニアピアノコンクサールの審査委員長も務められることから、県内の音楽・文化関係者から注目の研修会となった。作曲家どうしが創作の面でどのように影響を受けあってきたかを丁寧にお話しされ、大変美しいタッチの演奏で会場はその音色に酔いしれた。

また、本学客員教授の赤松林太郎先生のレクチャー&コンサート「ショパンを弾こう～ショパンにとってのワルツとは～」では、親しみやすいワルツの歴史や、当時の楽器を意識したタッチ、調整からくるイメージなどについて、ショパンの人生と重ねられた内容で展開され、参加したピアノ指導者の方からも大変有意義な内容だったと感想をいただいた。今後も日頃の教育活動・研究活動がより充実するよう、FD研修を計画・実施し、学生への還元を図っていきたい。

【人間福祉学科】

人間福祉学科 学科長 堀 圭三

(1) 令和6年度 授業改善のためのアンケート評価について

学生の授業改善アンケートの結果から、人間福祉学科全体を時系列にみた数値では、令和5年度に比べて令和6年度の結果は、若干ながらポイントが低下した。全体的には、概ね90%を超えているが、とくに今年度は、「マナーの悪い学生に対する指導は適切であった」が78.5%、「私は、この授業の予習あるいは復習をした」が61.3%と低い評価であったことは、教育目標でもある「学生との親密な信頼関係を育て、ともに学び合う授業を展開する」ことや「準備学習(予習・復習)の意義を理解させ、実践する」ことが十分に達成されたとはいえ、学科として改善していきたい。

ガイダンスでの指導や各授業での課題の出し方の工夫など、これらの点については学科全体で共有し、繰り返し学生に伝えていきたい。引き続き学生の授業改善ためのアンケートを踏まえて、教員としても工夫を重ね、一層の評価改善を継続して繰り返していくことが必要だと考える。

(2) 授業改善の具体的方策について

各教員からは、アンケート結果を踏まえて、以下のような具体的な方策が示されている。

「マナーへの注意については、配慮のある注意を心掛けることと、主体的に取り組みたいと思える授業運営を目指したい。授業での学びを記述する授業記録を取り入れたことで、主体的に学ぶ姿勢がみられたし、学生の学びを確認することもできたため、今後も継続したい。」

「自立・自律した社会人となるためには、基礎知識を身につけるだけにとどまらず、それをもとに学生自身が課題意識をもちながらさらに考えていく必要があり、考察力や実践力もあわせて身につけられるように、今後もアクティブ・ラーニング等も取り入れた授業の実践に努めていきたい。」

「『積極的な関心を持た』という項目について、科目により差があった。興味関心については、科目の特性上身近に感じづらい内容もあり、より具体的にイメージできるような教材の工夫が必要だと考える。また、マナーについても学生が必要性を理解し主体的に行動ができるよう、声掛けなどの改善に努めていきたい。」

各教員とも授業改善に向けてさまざまに試行しており、それぞれの授業において工夫することで、学科全体としても、また学生自身も学びの理解度は高まると思われる。

(3) 令和6年度の授業改善目標について

今年度の授業改善目標は、“成績の評価方法・基準に基づいた「学習の成果」を獲得する授業を行う！”であった。

学習成果とは、学生がそれぞれの授業において具体的な知識・技術・態度などを身につけることである。各授業科目のシラバスでは学習成果（到達目標）を明記し、授業を展開している。

本年度の授業改善目標を踏まえた各教員の主な取り組みは、以下のようなものであった。

「学生が安心して学べる環境を意識した。教員の丁寧な話し方や学生の個々のペースを尊重することを適切に行うこと、学生同士の意見共有なども建設的な形で行えるよう心掛けた。」

「ルーブリック評価を示すことで、その科目での成果を理解することを促した。また、授業内容と連動した自主学習シートを活用したことにより、より科目の目的に対する理解を自主的に深めて取り組んでいる様子がみられた。」

「アクティブ・ラーニング(グループワーク・意見共有・他者に学びを伝える機会)やクロムブックの活用は、進めることができた。今年度もグループワークも行い、肯定的な感想もあったためこれらの方法を工夫したい。」

「少人数である環境を生かし、学生へ密に声掛けをおこない信頼関係を構築することで、学生と共に学び成長できる授業展開を目指す。」

「学習内容と学生を取り巻く現状がリンクするよう、日頃から興味関心が抱けるようなケーススタディや問題提起を取り入れ、目的意識を持った学習を促す。」

「具体的な学習方法を提案し、準備学習がなぜ必要なのか理解し、図書館の利用も含め自立して学習を進められるような授業展開を目指す。」

「学生との信頼関係を育み、学生の能動的な学修姿勢を促すように働きかけていきたい。また、細やかに個々の習熟度や性質に寄り添い、学生の成長に資する関わりを心掛けていくとともに、教員自身の成長のために研鑽を積んでいきたい。」

「教材研究（ワークシート及び資料を含む）を踏まえ、主体的な参加型授業の工夫に努めたい。また、特性を理解し、学生との信頼関係を育てる工夫をしたい。図書館の利用も積極的に促したい。」

「学生の習熟状況を把握しながら、意欲と関心を引き出すような関わりを心掛けていきたい。学生との信頼関係を深め、アクティブ・ラーニングを取り入れていくようにする。すべての学生に発言の場を設け、授業を通し、コミュニケーション能力も醸成していきたい。また、国家試験についての合格基準を意識した課題の取り組みを早期に導入していきたい。」

「学生の実習先や興味関心を理解しながら一方的な授業にならないようにし、親密な信頼関係を築けるよう努力していきたい。」

「学生の興味関心が深まるよう教材の工夫等していきたい。授業内で発言する機会や学生同士が話し合い考えるような時間をつくること、図書館の利活用を促していきたい。」

学科としては、概ね授業改善目標を意識した授業を行っており、その成果も出ているが、「準備学習(予習・復習)の意義を理解させ、実践する」については、アンケート結果からは十分とはいえない。また、図書館の利活用についても同様である。

(4) 令和6年度動画教材視聴について

旧関西地区FD連絡協議会が作成した動画教材『シリーズ 大学の授業を極める』は、①「講義法」、②「アクティブ・ラーニング」、③「学習評価」及び、④「授業設計」の4つのテーマで構成され、さらに各4本の動画が用意されている。その中からテーマ順に、①『講義法は時代遅れ?』、②『アクティブ・ラーニングとは?』、③『学習評価の役割とは?』、④『シラバスってどんな役割があるの?』を選び、視聴対象とした。③を全員が視聴し、その他1つ以上を各自の選択とした。各自で視聴し、報告書を作成して提出した。

全員が視聴した『学習評価の役割とは?』では、評価することの役割として、1) 学生の学習促進、2) 到達度の確認、3) 授業改善、4) 学生支援の資料、5) 説明責任、を挙げている。さらに、「評価課題」と「評価基準」を示すことで、到達目標が明確になり、また、学生自身が自己評価できることの説明があった。主な意見は次のとおりである。

「評価方法について、自分の授業で定期試験 100%があり、定期試験のほかに、途中で理解度を確認する評価方法（小テスト、小レポートなど）を取り入れることを検討したほうが良いかもしれないと思った。」

インターネットをはじめとし、必要に応じて手軽に情報が得られる昨今、動画内での「教師の役割を考え直さなければいけない時代」という発言に同意した。知識を提供するに留まらず、学生が登校しリアルタイムに学び、集団の中で活動するという社会の縮図となる環境を生かせるよう工夫したい。」

「本動画では、わかりやすく 5 点の学習評価の役割が説明されていた。①学生の学習を促進する、②学生の到達度を確認する、③教員の授業改善を促す、④学生支援の資料になる、⑤社会に対する説明責任を果たす、の学習評価の役割から、自らの授業や評価方法について振り返ってみた。特に、最近では①学生の学習を促進することを意識しながら、評価を行うようになってきた。授業内課題と定期試験を作成する際に、学生が「調べまとめ」「他者と共有する」などの活動を通して、内容の理解を深められることと、学生自らが学びを振り返ることができるように意識している。また、学生や提出物や試験結果から、教員として③自らの授業改善を考えるよい機会と捉えるようにしている。シラバスを含め授業の説明の重要性にもあらためて気が付くことができた。今後も、今回学んだ 5 点を意識して、授業の運営や評価をしていきたい。」

「本動画では、授業は『学生が知識を長期記憶に止める』ことが重要と述べられていた。人間の脳内の情報メカニズムを理解し、授業を準備していくことの大切さが繰り返されていた。例えば、適切なスキーマ（過去の知識の体系）を呼び出しやすい授業の工夫として、授業内の構造を提示すること（方向指示・構造化・強調・関連づけ）が挙げられていた。すでにこれは実践していたが、本動画で意義を再確認することができた。また、長期記憶に定着することを目的として、①講義を聴く、②学生が他者に教える、③学生が他者に教わる、④復習テストという反復の例が挙げられていた。この方法に近い形での工夫はできると考える。」

「アクティブ・ラーニングを導入することが推進されているが、明確な定義を理解せず、授業内に手法を導入しているかという点に意識が向きがちだと考える。今回の動画を通し、『講義法』『アクティブ・ラーニング』それぞれの特性が具体的に定義され、学生への教育効果、授業内での活用方法について理解が深まった。手段としてアクティブ・ラーニングの導入だけに捕らわれず、『講義法』『アクティブ・ラーニング』を科目特性や知識・技術の習得における学習成果・目標に応じて相互に活用し、学生教育に生かしたい。」

「アクティブ・ラーニングについて、教える内容に加えて、教える方法、アウトプット型の学習方法を取り入れて行う方法を検討する必要がある。発問（問いかけ：答えが一つではない研究的な視点もあり）によって考えてもらう、ノートや資料に書いてもらう（書いてもらうスペースをつくる）意見を発表してもらうなど検討する必要があると思った。」

「シラバスについて、シラバスは、授業全体を設計する重要な書類であり、重要であるということを理解した。時間をかけて作る必要があると感じた。目標設定と評価方法の重要性は分かったが、設定が難しいと感じた。」

(5) 令和 6 年度の F D 活動について

今年度も F D 研修会を行ってきたが、そのなかで、「研究倫理」研修と「合理的配慮」に関する研修について取り上げる。

研究倫理研修は毎年行われているが、昨年度も述べたとおり、教員の教育・研究活動において、「研究倫理」は最も大切なことであることを再認識した。「研究倫理」違反は、研究者自身だけでなく、所属する教育機関や学会にも大きな影響を与えるものである。本研修の中でも、事例が紹介され、改めて、教育・研究の現場に立つものとしての責任を認識する機会となった。

「合理的配慮」の研修では、合理的配慮の提供とは、適当な変更や調整（リーズナブルな配慮）であることが大切であることが理解できた。そのための留意点として、

- ・本来の業務に付随する（必要な学生に配慮することは業務である、ただし、業務以外の配慮は不要）。
- ・機会の平等（学生の意思を確認せず、教員の判断で実習に行かせないのは差別）。
- ・本質変更の不可（評価基準を変えることではなく、評価項目を増やしたりすること）。
- ・過重な負担はしない。

が指摘されていた。今後も研修を重ね、適切な配慮ができるように大学全体としてのコンセンサスが必要と感じた研修であった。

【食物栄養学科】

食物栄養学科 学科長 百田 裕子

(1) 令和6年度 授業改善のためのアンケート評価について

過去5年間の時系列比較表（P.2）より、マナーに対する設問項目（教員の指導と学生自身の評価）は令和4年度が最も高かったが、その他の項目は今年度が最も高かった。「そう思う・どちらかといえばそう思う」との評価は、82.5～96.3%であった。回答率は、令和2年度77.1%、3年度80.9%、4年度は93.6%、5年度81.6%であったが、今年度は86.3%に回復している。

項目別では、学生から教員の授業に対する質問項目で最も評価が高かったのは、①「教員の講義はよく聞き取れた」96.3%、次に、⑥「教科書・資料などの教材は適切であった」95.9%、④「教員は質疑応答の機会を適切に作った」95.0%、③「知的関心・興味が深まった」94.3%と続いた。

一方、学生自身の授業に対する質問項目において高い評価を得た項目は、⑩「私は、この授業を受講してよかった」95.4%、⑦「私はこの授業に積極的な関心をもっている」94.0%、⑧「私は、学生としてのマナーを守った」91.6%、と続いた。例年、最も評価の低い項目である⑨「私は、この授業の予習あるいは復習をした」も昨年度よりも2.0%上がり、82.5%となった。学生が主体的に学ぶ姿勢を育み、実践することが求められ、今年度はシラバスに毎回具体的な事前・事後学習内容を記載されたことから、学生の学習意欲を高められたものと思われる。

(2) 令和6年度の授業改善目標について

教員のコメントからは、成績の評価方法・基準に基づいた「学習の成果」を獲得する授業を行うために、教員自身の基本的姿勢、学生への指導目標と具体的な行動目標に従い、授業を実践していたことが窺えた。

1. 教員の基本的な姿勢

- ・学生との親密な信頼関係を育て、ともに学び合う授業を展開する。

講義科目では、数名の教員から一方的な授業になってしまい、十分な理解ができていない学生の対応ができていないとのコメントがあった。しかし、学生の授業改善アンケート結果では、「私はこの授業を受講してよかった」、「私はこの授業に積極的に関心をもっている」の設問で、「そう思う・どちらかといえばそう思う」と、95.4%、94.0%が回答していることから、教員は学生と親密な信頼関係で、授業を展開していると思われた。

2. 学生への指導目標

- ・学生が自ら学ぶ姿勢を育む。

一部の学生は、提出物が遅れたりしているようだが、授業改善アンケートではなく、2年生の卒業時のアンケート結果では、1年次よりも授業外学習時間が伸びている。これは、各教員が事前・事後学習として課題を出し、リアクションペーパー等を活用して学習成果を確認しながら授業を進めていることから、学生が

自ら学ぶ姿勢を育てている成果と考えられる。

3. 教員の具体的な行動目標

・準備学習(予習・復習)の意義を理解させ、実践する。

例年、4月の教務ガイダンスで、教育の目的・目標や学習成果、学位授与方針等を説明するとともに、主体的に学ぶ大切さを強調している。今年度から、シラバスに授業外学習として予習・復習の内容を明記している。最初の授業で、授業の進め方、予習・復習、成績の評価基準や方法を説明し、教員は毎回の学習内容で何を学ぶのか、そのポイントを毎回の予習・復習を促し、ミニテスト等を実施して理解度を確認している。授業改善のためのアンケート結果でも「私は、この授業の予習あるは復習をした」と82.5%が評価していることから、準備学習の大切さを理解し、実践しているものと思われた。

・フィードバック等を通して、学習意欲を高める。

フィードバックの方法は教員により異なっていた。より理解度を高めるための解説を丁寧にしたたり、解説書を配付したりしていた。また、レポート等の返却は、一部に返却時間がかかってしまったという教員もいたが、学ぶ姿勢を育むことを常に意識して努力している様子が窺えた。

・図書館の利活用を促進する。

図書館の利活用については、今年度も食物栄養学科は少なかった。クロムブックやスマホの携帯により、インターネットを使用した情報収集となっている。信頼できる情報から学ぶことも大切であるため、図書の利用を推進していきたい。

クロムブックの活用は、授業だけでなく、各種提出物の作成や発表資料のまとめなどを含めて、有効使用しているようである。

・必要に応じて、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を実践する。

食物栄養学科の実験・実習・演習科目は、アクティブ・ラーニングであり、これらの科目は、グループでまたは友人と意見交換をしながら進められていた。今年度の1年生は、学習意欲と仲間意識が高く、率先して授業に取り組んでいた。また、2年生の「食物栄養演習(ゼミナール)」では、選択科目であるが今年度も担当教員の指導のもと、熱心に教育研究をしていた。最後の研究結果の発表内容も素晴らしいものであった。

例年、11月に1年生を対象に圃場見学を正課外で実施している。今年度は、県内の農畜産物や食品工場の現場を見学した。県内の農畜産物の特徴について県の農政課に特別授業を依頼し、農政の現状について学び、現場を見学した。これらの成果は、食育フェアやクリスマス・マーケット等のイベントで発表したり、レシピ集にまとめて配布したりし、学生の学びを高めていると思われる。

講義科目でも、質疑応答をしながら授業を展開している様子が窺えた。

以上、学生の授業改善のためのアンケート結果に対する専任教員のコメントをもとに述べてきたが、毎年、3月に次年度に向けての非常勤講師も含めた講師会を実施している。今年度は、次年度から改正される「三つの方針」やシラバスの変更内容の説明を丁寧に行った。その後、学生の授業改善のためのアンケート結果や、学生委員会実施の卒業時の学生生活アンケート結果等も報告している。また、学生の授業態度や授業の展開方法等も意見交換をして共有している。参加された非常勤講師の先生方からは、今年度の反省と次年度に向けての準備として有意義な時間であったとのコメントをいただいた。その点では、担当科目のみの学習成果だけでなく、本学科全体としての学習成果の向上に連携した協働体制ができ、成績の全体的な向上へつながっているのかと考えられ、非常勤の先生方にも感謝したい。

(3) 令和6年度教員相互授業参観について

今年度の教員相互の授業参観は、栄養士としての指定科目の成績向上のために、オムニバス科目『栄養士実力養成演習』と『食物栄養特別演習(管理栄養士試験対策講座)』を対象に実施した。各教員は、授業参観したい教員にお願いして参観した。科目に応じた資料の準備状況や、授業の進め方、学生一人ひとりへ配

慮等を学び、自己の授業の反省や改善の必要性を報告書に述べていた。教員の質の向上につながっていると思われる。

(4) 令和6年度のFD活動について

今年度4月1日から「健康日本21 第三次」が策定されて実施されることから、3月18日～4月29日まで、栄養士・管理栄養士養成施設の教員向けの特別研修会が『健康日本21（第三次）の策定について～栄養・食生活領域を中心に』とのタイトル動画が配信された。健康日本21(第三次)では、「全ての国民が健やかで心豊かに生活できる持続可能な社会の実現」をビジョンに掲げ、誰一人残さない健康づくりを進めるとしている。このような研修会は、食物栄養学科を開学して初めであった。栄養士養成施設として、専任教員は、国の基本方針を正しく理解することが大切であり、全員視聴することを勧めた。担当分野以外の教員にとっても国民の健康状態の現状と課題を再認識し、この1年間の授業に反映できているものと思われる。

学内では、今年度も様々なFD研修会を実施したが、特に、「教学マネジメント」に関する研修と「シラバスチェック研修」は学科内において担当する科目の大切さを改めて実感したのではないかとと思われる。

令和7年度から第4期の機関別認証評価基準による自己点検・評価活動が始まる。今年度は本学の三つの方針について時間をかけて検討し、改定した。「教学マネジメント」研修では、『学習者本位の教育』のために「機関レベル、学科レベル、科目レベルの関係性を理解した」、「学生ひとり一人が主体的に学び学習成果を向上させるために、教職員が教学マネジメント指針の内容を共通理解し、進めていくことの大切さを学んだ」等の感想が寄せられた。

一方、専任教員相互の「シラバスチェック」は2年目である。三つの方針の改定による学士力を考慮した新たな食物栄養学科の学習成果に対して各科目の学習成果と整合性があるように、かつ学習成果を適切に評価できるように、評価項目の内容を記載するように、シラバス作成依頼時にお願した。特に、これらの点に注目し、シラバスチェックを実施した。科目間で関連のある科目は相互理解のために、関連科目の教員同士でチェックし、最後に教務委員でチェックした。次年度の学習成果の結果を期待したい。

II-4 令和6年度SD研修会への取り組みの総括

事務局長 江田 壮一

今年度のSD研修は、7つの研修に参加した。そのうちオンライン研修実施が4件、外部集会研修は3件であった。出張での研修は時間的に厳しい面があった。研修では管理運営や教育支援を含めた内容の研修で各人の資質向上等につながった。また、研修後に研修内容を事務局内で情報を共有している。今後も外部実施のSD研修や、短期大学全体としてのFD・SD研修に参加し、教育の質保証の向上に努めていきたい。

V. 令和6年度FD・SD研修会報告

【音楽科FD研修会】

(1) 音楽科第1回FD研修会

日 時：令和6年6月1日(土)、14:00～16:00

場 所：須賀友正記念ホール

講 師・タイトル：椎野伸一先生「受け継がれたリスペクト～作曲家たちの技術と精神性～」

内 容：東京学芸大学名誉教授の椎野伸一先生は、須賀英之学長の奥様、東京学芸大学名誉教授・須賀房江先生のご縁でお迎えすることができた。長きにわたり、栃木県ジュニアピアノコンクサーの審査委員長も務められることから、県内の音楽・文化関係者から注目の研修会となった。

作曲家どうしが創作の面でどのように影響を受けあってきたかを丁寧にお話しされ大変美しいタッチの演奏で会場はその音色に酔いしれた。

(2) 音楽科第2回FD研修会

日 時：令和7年2月15日(土)、14:00～16:00

場 所：須賀友正記念ホール

講 師・タイトル：赤松林太郎先生「ショパンを弾こう～ショパンにとってのワルツとは～」

内 容：親しみやすいワルツの歴史や、当時の楽器を意識したタッチ、調整からくるイメージなどについて、ショパンの人生と重ねられた内容で展開され、参加したピアノ指導者の方からも大変有意義な内容だったと感想をいただいた。今後も日頃の教育活動・研究活動がより充実するよう、今後もFD研修を計画・実施し、学生への還元を図っていきたい。

【食物栄養学科FD研修会】

日 時：令和6年3月18日(月)～令和6年4月29日(火)

タイトル：健康日本21(第三次)の策定について～栄養・食生活領域を中心に～

方 法：全国栄養士養成施設協会HPアクセス、You Tubeチャンネル視聴用URLと配布資料を各自ダウンロードして視聴

内 容：健康日本21(第三次)が4月に始まることから、その策定の中の栄養・食生活領域を中心に厚生労働省健康・生活衛生局健康課栄養指導室室長補佐の齋藤陽子氏の講演を視聴して、健康日本21(第三次)の策定の背景とビジョンや健康づくりの進め方を学ぶ。専任教員は、本研修会を視聴することで、国の健康日本21(第三次)の栄養・食生活に関する内容を把握し、授業に活かすことができた。

【宇都宮短期大学(宇都宮共和大学)FD・SD研修会】

(1) 宇都宮短期大学FD・SD研修会 「合理的配慮に関する研修」

日 時：令和6年5月10日(金)、15:00～16:00

場 所：3号館4階会議室

参加者：宇都宮短期大学教職員20名

講 師：堀 圭三先生

内 容：令和6年4月の「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」の一部改正を受けて、合理的配慮の提供が努力義務から義務へと変わった。法改正の内容とそれに伴い発生する義務、大学が提供すべき合理的配慮の考え方や実際に提供する際の方法等について学んだ。

(2) 宇都宮短期大学FD・SD研修会 「教学マネジメントに関する研修」

日 時：令和6年7月5日(金)～8月19日(月)、

方 法：①令和2年1月22日中央教育審議会大学分科会の「教学マネジメント指針」に目を通す
②動画【全体版】「教学マネジメントの確立に向けて」を各自視聴

参加者：宇都宮短期大学教職員21名

内 容：「学修者本位の教育」を実現し、学習成果を向上させるために「教学マネジメント指針」の内容を共通理解して進めることの大切さを学んだ。

(3) 宇都宮短期大学・宇都宮共和大学FD・SD研修会 「教職員向け情報セキュリティ研修」

日 時：令和6年8月19日(月)、15:00～16:00

場 所：宇都宮シティキャンパス604講義室(長坂キャンパスはLIVE配信にて)

テーマ：「組織におけるサイバー犯罪の傾向とセキュリティ対策について」

講師：(株)あしぎん総合研究所 地域開発事業部

参加者：宇都宮共和大学・宇都宮短期大学教職員 59名

内容：サイバー犯罪の傾向と対処法を学んだ。参加者の9割から、研修内容を理解できた・参考になったとの回答を得た。今回のように意識付けが必要な内容を定期的に設定していただきたいとの要望があった。

(4) 宇都宮短期大学FD研修会 「第4評価期間短期大学認証評価に関する研修」

日時：令和6年10月16日(水)～10月31日(木)

「第4評価期間短期大学認証評価に関するAL0対象説明会動画」を各自視聴

参加者：宇都宮短期大学教員

内容：令和7年度から第4期認証評価が始まる。8月26日に開催されたAL0対象説明会動画が、大学・短期大学基準協会のHPに一定期間掲載されたことから、各自視聴して、第3評価期間と第4評価期間の評価基準の変更点を学んだ。

(5) 宇都宮短期大学・宇都宮共和大学FD・SD研修会「キャンパス・ハラスメント防止啓発研修」

日時：令和6年8月23日(金)～9月25日(水)

キャンパス・ハラスメント防止啓発のための2つの動画を各自視聴

①大学で起きたパワハラ3選 法律情報局チャンネル

②大学で起こるハラスメント編(アカデミック・ハラスメント防止啓発動画、特定非営利活動法人 アカデミック・ハラスメントをなくすネットワーク(NPO NAAH))

日時：令和6年9月27日(金) 16:00～17:00 フォローアップ研修

場所：5号館501教室

参加者：宇都宮共和大学 宇都宮短期大学 専任教職員

内容：他大学で実際に起こったキャンパス・ハラスメントの事例等を題材にグループ討議を行い、未然防止について心構えをもった。

(6) 宇都宮短期大学・宇都宮共和大学FD・SD研修会 「研究倫理研修」

日時：令和7年1月10日(金)～1月31日(金)

YouTube動画「倫理の空白Ⅲ 人文・社会編 研究活動のグレーゾーン」を各自で視聴

日時：令和7年2月14日(金) 15:10～15:40 フォローアップ研修

場所：5号館5階501室

参加者：教職員69名

内容：動画視聴後の設問に対する解説を行った。アンケート結果では、分かり易く、とてもためになったと9割以上が回答した。

(7) 宇都宮短期大学・宇都宮共和大学FD研修会 「令和7年度シラバスチェック」

日時：令和7年2月14日(金) 13:00～15:00

場所：各学科会議室にて

参加者：宇都宮短期大学・宇都宮共和大学教員

内容：令和7年度の各科目のシラバスにシラバス作成要領に基づき、かつ改定された卒業認定・学位授与方針の学習成果に合わせて明記すべき項目が記載されているかどうかを教員相互でチェックした。

VI. 令和6年度SD研修会報告

(1) 日本私立学校振興・共済事業団 助成部 「令和6年度助成部相談会・説明会」

日 時：令和6年8月6日（火） 13：00～15：20

場 所：上智大学 四谷キャンパス 10号館

参加者：事務局 江田 壮一、高校事務 阿部

内 容：①令和6年度私立大学等経常費補助の主な変更点等について

特に一般補助では、収容定員の未充足に係る例外措置【変更】

②会計監査員による近年の検査等の状況について

③寄附金の制度や奨励金について

④減免資金交付事業等の変更点・注意点について

その他 資料として配布「私立大学等経常費補助金の申請にあたっての留意点」

(2) 関東私立短期大学協会 「令和6年度 教職員研修会」

日 時：令和6年10月21日（月）14：00～16：10（オンライン研修）

参加者：事務局 江田 壮一、正田 泰介

講 演：①「短期大学を取り巻く高等教育政策の状況について」

講 師 文部科学省高等教育局大学教育・入試課 課長補佐 中田 幸志 氏

②「令和7年度の概算要求を中心とした私立短期大学を取り巻く情勢について」

講 師 文部科学省高等教育局私学部私学助成課 課長補佐 菅谷 匠 氏

(3) 文科省関係機関 「令和6年度階層別サイバーセキュリティ研修会」

支援業者：グローバルセキュリティエキスパート(株)へ委託

参加者：事務局 正田泰介

研修期間：令和6年10月30日（水）～11月1日（金）10：00～18：00（オンライン研修）

プログラム概要：

認定サイバーセキュリティ技術者コースの教材

01 情報セキュリティの脅威と脆弱性 ～ 22 リスク管理

ICT技術を活用するには、情報セキュリティ、サイバーセキュリティにおける正しい認識とセキュリティを本当に守れる実効性をどのように形作れるのか。こうした自組織のサイバーセキュリティレベルの実効性の向上の一助となることを目的に研修を実施する。

(4) 日本私立短期大学協会 「令和6年度私立短期大学学生生活指導担当者研修会」

日 時：令和6年12月12日（木）10：00～16：00（オンライン研修）

参加者：事務局 飯塚 敦

講 演：「高等教育機関における障害学生の合理的配慮」～改正障害者差別解消法と第三次まとめ～

講 師：宇部フロンティア大学 心理学部心理学科准教授 脇 貴典 氏

分科会研修：①心身健康に関わること

②学生生活に関わること

③危機管理に関わること

(5) 日本私立短期大学協会主催

「地方創生2.0に向けた私立大学・短期大学と自治体との連携強化に関する説明会」

日 時：令和6年12月18日10：30～11：30（オンライン）

参加者：事務局 江田 壮一

講演：「地方創生 2.0 の動向と地方自治体との協力体制に向けた手がり」

講師：文部科学省高等教育局大学改革官 山下 洋 氏

- ・地方創生 2.0 の最新情報

- ・自治体と大学が協働する事業案の提案や構想・計画作りへの協力・参画など
私立大学の期待される役割

(6) 日本私立学校振興・共済事業団 「私学共済事務担当者研修会」

日時：令和 7 年 2 月 5 日（水） 9：30～16：30

場所：東京ガーデンパレス

参加者：事務局 菊池 早苗

内容：「資格・短期」コース

(7) SD 研修会

日時：令和 7 年 2 月 25 日（火）

場所：宇都宮共和大学宇都宮シティキャンパス 604 講義室

講師：非常勤事務職員 富沢 三輪子 氏（元フライトアテンダント）

参加者：事務局 高久 有紀子

内容：「パワハラ防止とホスピタリティマナー」

- ①パワハラ防止

- ②ホスピタリティマナー

以上